

### Ⅲ-2 中山間地域

(1) 中山間地域の現状を踏まえ、農村地域の発展・活性化を図りつつ、農村環境を保全するために、検討すべき項目を多様な視点から挙げて、その内容について述べよ。

(2) 上述した検討すべき項目に対して、解決すべき技術的課題を抽出し、主要な問題解決のための実現可能性の高い対応策を複数提示せよ。

(3) それらの対応策を実施した場合の効果（メリット）とそれらを実行する際の問題点を論述せよ。

#### (1) 現状分析

##### ア) 農業による収益面での検討

平野部と山地の接する部分に位置する中山間地域に於いては、地形上非効率な農作業を強いられている。

5 このことから、収益力が低く、いきおい耕作放棄地の増加につながっている。このため、効率的な農業への転換による収益向上は、中山間地域を守るためにも待ったなしの検討課題である。

##### イ) 多面的機能を維持するための検討

10 中山間地域は、食料の安定供給機能や多面的機能の発揮の面でも重要な役割を果たしている。この中で、多面的機能発揮には、地域の共同活動や営農活動などコミュニティが重要な役割を果たしてきた。しかし、中山間地域の高齢化の進行や担い手不足が地域力の低下を招いており、不足する地域力をいかにして有効に活用するかが大事な検討課題となっている。

##### エ) 中山間地域の競争力強化検討

20 効率的な農業への転換による収益向上は、中山間地域を守るためにも待ったなしの検討課題である。しかしながら、効率的な農業を展開するにしても農業の「現地生産、資材の現地調達、単品生産」という性格上労働力の確保は必須である。そのことから、厳しい農業環境下の中山間地域をモデルとした労働力不足をカバーできる競争力強化策は重要な課題である。

#### 25 (2) 技術的課題と対応策

##### イ 農業による収益面での技術的課題と対応策

##### (ア) 農業収益向上の課題

中山間地域は、農業生産コストが高い。このことから、中山間地域では、コスト高をカバーできる収益向上策が必要である。このため、中山間地域農業者が主体となって、収益向上に如何にして取り組むかが課題となる。

##### (イ) 農業収益向上の対応策

30 対応策として、6次産業化への取組がある。具体的には、栽培面では、新商品開発に向けた加工適性のある作物の導入する。また、ソフト面では、農林漁業者等による新商品の開発・販路開拓、六次産業化・地産地消施策などに取り組むべきである。

##### ロ 多面的機能を維持するための技術的課題と対応策

##### (ア) 多面的機能を維持の課題

40 中山間地域は、地域資源である、コミュニティ力が低下している。地位山間地域に於いては、人口減少が加速しており、低下するコミュニティ力強化が大きな課題となっている。

##### (イ) 多面的機能を維持の対応策

45 対応策として、行政による地域資源の「力」をフル活用できる取組を強化すべきである。具体的には、行政は地域の共同活動や営農活動のコミュニティ力支援策として、活動への助成金交付や資材購入費の補助などに取り組むべきである。これらを通じて、水路や農道、景観形成など多面的機能の維持に繋げるものである。

##### ハ 中山間地域に競争力強化の課題

##### (ア) 農地の高機能化の課題

55 中山間地域に於いては、地形上非効率な農作業を強いられている。このことから、中山間地域農業の競争力強化のための農地の高機能化が課題となる。

##### (イ) 農地の高機能化の対応策

60 対応策として、中山間地域などにおける水田の畑地化、畑地・樹園地の高機能化等の基盤整備を推進すべきである。具体的には、水田の排水改良や、畑地・樹園地の区画拡大・畑地かんがい施設の整備等を行い、効率的な農業が展開できるよう鋭意推進すべきである。

##### (3) メリットと問題点

65 メリットとして、中山間地域を維持することは、水源かん養、洪水の防止、土壌の浸食や崩壊の防止など、下流域の都市住民を含む多くの国民の財産、豊かな暮らしに資することができる。

70 また、問題点としては、これらを定量的に評価できるシステムがないことから、便益算出手法の構築が必要なことが挙げられる。

以上